

# 学校だより

## ネットと上手に付き合うことは未来を創る

昨年の暮れ、テレビで1964年東京オリンピック時の世相のドキュメンタリー番組が放送されました。東京の街が大きく変貌し、高度経済成長期の幕開けと共に、その成長の陰で社会の歪みが生じてきたことを映像で表していました。歴史は繰り返すという言葉があります。当時の世相や世界情勢は、今とは大きく異なりますが、急速に進む技術革新の中で、正しく進むべきことは何かを見極める判断力を子供たちに身に付けさせることが、教育に必要なだと番組を視聴して感じました。

さて、我が国の教育は、黒板とチョークと紙の教科書が主流で進んできました。今後は、国が進める ICT 環境の構想で大きな変化が予測されます。昨年、文科省は、児童生徒に一人一台の端末と高速ネット化を打ち出しました。本校では、各教科において ICT を使用する授業が頻繁に行われています。今後はさらに、電子教科書、タブレット等と教室での授業風景も大きく様変わりしてくると思います。そして、忘れてならないことは、ICT は手段であり目的ではなく、使用する子供たちが変化を前向きに受け止め、予測不可能な未来社会を自立して生き抜く力をつけることだと思います。便利なものにはリスクも大きく伴います。環境整備以上に子供たちが ICT を適切、安全に使いこなす情報リテラシー教育は、早急に取り組まなければなりません。そのような中、1月は、裏面に掲載されている情報リテラシーに関する発表やシンポジウムが行われました。両日とも生徒会本部の生徒が参加し、日頃の取り組みについて発表しました。1月18日の狭山市で行われたシンポジウムでは、市内中学校の代表者が活発に議論し「大人がネット社会についてもっと学ぶべき」「大人が知らないことが恐ろしい」など、子供にリテラシーを教える以前に、まずは大人が最先端の知識を知らなければと痛感しました。そして22日の県教委「私たちのネット利用づくり」では、生徒目線でスマホ等についてのリスクを精査し、スマホ等の情報社会とどう付き合い、自分たちで課題を克服していくかという取り組みを発信しました。中でも「健康に対するリスク」に着眼したことは、歯の健康や安全指導等、日頃の地道な委員会活動の成果の表れだと思いました。折しも、時期相応して香川県の「スマホやゲーム時間制限の条例」が話題になりました。行政主導に対して賛否両論ある中、本校の取り組みが、児童<sup>児童</sup>やそれに関わる大人にどのように感じていただけるか、興味関心は尽きません。いずれにしても、スマホの使い方について生徒目線で考えたこと、「守れないルールを作ることに意味はない。ネットを上手に使おう」という視点は未来を創ること」など、大人が考えている以上に、生徒たちのネット社会を生き抜く下地は着実に進歩しているのではと感じました。これからもいじめゼロ宣言の取り組みから発展した、本校の取り組みが、生徒たちにとって少しでも自信となり、社会を生き抜く力となればと願っています。

